りゅうとう

全曲委嘱・初演作品による

二十五絃箏コンサート

vol.3

平成22年10月6日 水 開演＝19時（開場＝18時半）

すみだトリフォニーホール 小ホール

りゅうび

ご挨拶

本日はお忙しい中、お出掛けくださいまして誠にありがとうございます。

私達の尊敬する野坂操壽先生が二十五絃箏を作られてから19年が過ぎ、先生をはじめ、いろいろな方が二十五絃箏の素晴らしさを感じ、様々な可能性を求めてまいりました。四人で演奏することにより、その可能性を少しでも広げることができればと、第三回目の今回は、全曲を委嘱・初演という形にてコンサートを開催させていただくことになり、練習を重ねて参りました。個性の異なる四人で創り出す音をお聴き頂ければ嬉しく思います。

最後になりましたが、本日のコンサートの為に作曲してくださった、高橋久美子氏・田中修一氏・真鍋尚之氏・上野哲生氏・信長貴富氏、ご多忙の中御助言いただきました野坂操壽先生をはじめ、日頃私達を支えてくださっている多くの方々に、心から感謝申し上げます。

出演者一同

PROGRAM（全曲委嘱・初演）

一、あおひとくさ ～二十五絃箏と女声のための～／高橋久美子 作曲

二十五絃箏 弾き歌い＝田中静子

二、古琴幻想～二面の二十五絃箏のための～ Fantasia di QIN-Antico per KOTO di 25 corde Due ／田中修一 作曲

二十五絃箏Ⅰ＝佐藤里美
二十五絃箏Ⅱ＝荒井美帆

三、舞曲～四面の二十五絃箏のための～ Tanzmusiken für vierte 25 seite Kotos ／真鍋尚之 作曲

二十五絃箏Ⅰ＝荒井美帆
二十五絃箏Ⅱ＝田中静子
二十五絃箏Ⅲ＝佐藤里美
二十五絃箏Ⅳ＝高橋はるな

休　憩

四、水のうた～二十五絃箏とビオラ・ダ・ガンバのために～／上野哲生 作曲

Ⅰ　時には川の中へ
Ⅱ　時には生命の中へ
Ⅲ　時には雪、あるいは氷の中へ
Ⅳ　時には陽の光の中へ

二十五絃箏＝高橋はるな
ビオラ・ダ・ガンバ＝神戸愉樹美　（客演）

五、更紗［sa-ra-sa］ ～二十五絃箏三面と低二十五絃箏のために～／信長貴富 作曲

二十五絃箏Ⅰ＝佐藤里美
二十五絃箏Ⅱ＝高橋はるな
二十五絃箏Ⅲ＝荒井美帆
低二十五絃箏＝田中静子

PROGRAM NOTE

あおひとくさ～二十五絃箏と女声のための～／高橋久美子 作曲

古事記に、人は「うつしき青人草（あおひとくさ）」と呼ばれている部分がある。「うつしき」は現実のという意味で、「青人草」は人が草の如く、地上に萌えいで成長し、子孫を残し増えていくことを表すのだそうだ。「音」も同様で、ひとつの音が発音され、増えていき互いに響き合うことでフレーズや和音を形成し「音楽」となるのである。また、この曲では声を使用しているが、歌ではなく、声も音の一部として捉えている為、歌詞を伴わない。と、同時に人間が、まさに生まれた瞬間に初めて発する音（赤ちゃんの泣き声）、そして、その声に反応し深い愛情とともに我が子をあやす母親の声もイメージのひとつとして創作した。（作曲者）

古琴幻想～二面の二十五絃箏のための～ Fantasia di QIN-Antico per KOTO di 25 corde Due ／田中修一 作曲

此の作品は、魏（220～265）の古琴曲「廣陵散」に触 発されて書かれました。「廣陵散」は 康（223～262）の作と伝えられ、叛逆 のメロディと云われており、漢の「聶政刺韓王」*が、その原型と考えられています。さて、太宰治は中国、清初の『聊斎志異』にヒントを得て、小説『清貧譚』『竹青』を書きました が、それと同一の態度で創作したいと考えました。すなわち故土の口碑や古典からのロマンチシズムの発掘にほかならないのでした。（作曲者）

＊聶政刺韓王

戦国時代に、聶政という男がいた。父親は刀匠であったが、韓王に殺された。聶政は父親の仇を討とうと決意するが、韓王に追われる身となる。しかし彼の復讐の決意はゆるがない。韓王が音楽を愛好することを知った彼は深い山に籠って一心に琴を学ぶ一方、自分の容貌を見分けのつかぬほどに変え、焼けた炭を呑んで聲もすっかり変えた。七年後、琴をマスターした彼は韓の国へ復讐のために帰った。帰国した彼は、道で長年会わなかった妻に出会う。「私の夫は家を出てもう七年、どこにいるのやら。さっきあなたが笑ったときにちらりと見えた歯が、夫の歯にそっくり。」女は泣いた。妻が立ち去ってから聶政は、石ころを拾って、自分の歯を一本残らずたたき割った。そして再び山に戻り、琴の練習をつづけた。三年後、聶政はまた韓の国に帰ったが、このときは誰ももう彼をみとがめる者はいなかった。彼の弾く琴は絶賛を博し、間もなくその名声は韓王の耳にとどいて、彼は宮中によばれた。彼は韓王の身近で琴を奏で、護衛の者たちまでがうっとりと聴き入っているすきに、琴にかくし持った匕首で韓王を刺し殺し、自分も死んだ。（参考「中国の音楽世界」孫玄齢著／田畑佐和子訳／岩波新書）

舞曲～四面の二十五絃箏のための～ Tanzmusiken für vierte 25 seite Kotos ／真鍋尚之 作曲

25絃×4面＝100絃。ピアノでさえ88鍵。それを上回る100の音。そして音域である約4オクターヴの中にもたったの48音、半分にも満たない。伝統的な箏のオクターヴ5音に対し、25絃は7音で1オクターヴを形成する。半音ずつ違う調弦にしても12半音を全てまかなった上に2音余る。そのことをまず考えた時に全ての半音を4面の楽器で網羅し、しかもそれぞれが全く別の7音の音階をなしている調弦を考えた。さらにはそれぞれが違うリズムパターンを演奏することにより、4人が全くもって違う曲を演奏しているにも関わらず4人が合わさった時にひとつの景色が初めて見えてくるような…そんな曲を目指した。（作曲者）

水のうた～二十五絃箏とビオラ・ダ・ガンバのために～／上野哲生 作曲

二十五絃箏は音階の作り方や弦の数に於いて、私の演奏するプサルテリー（中世の箱琴）ととても似ている楽器であり、それによる即興演奏の断片を随所に鏤めて使っています。西洋の古楽器であるヴィオラ・ダ・ガンバと合わせることは、和洋を意識せず、どこか懐かしい友との再会のようです。難曲ではありますが、それぞれの分野の第一人者が、この作品にほぼ半年がかりで取り組まれ、その熱意と素晴らしさに感服しております。（作曲者）

更紗［sa-ra-sa］～二十五絃箏三面と低二十五絃箏のために～／信長貴富 作曲

辞書によれば「更紗」とは「主に木綿地に、人物・花・鳥獣などの模様を多色で染め出したもの。（中略）直接染料で模様を描いた描（か）き更紗や、型を用いて捺染（なっせん）したものなどがある。」とのこと。本作では「型を用いて捺染」するという作業工程が発想源となっている。いくつかのモチーフを型紙に見立て、それらを重ねることで複雑な模様を成していく。実際の染め物ではいったん染め入れた模様を取り除くことはできないが、音楽の中では可逆的に工程を巻き戻すことも可能だ。視覚的な音楽が実現できればと思っている。（作曲者）

出演者プロフィール

佐藤里美 SATO Rimi

箏、二十五絃箏、三絃を野坂操壽師に師事。早稲田大学第一文学部心理学科卒業。NHK邦楽技能者育成会23期卒業。NHK邦楽オーディション合格。平成6年「25絃の会」を結成し、コンサートを行う。生田流箏曲松の実會師範。明彩会主宰。日本音楽集団団員。

高橋はるな TAKAHASHI Haruna

野坂操寿（初代家元）・野坂惠子（現 野坂操寿）両氏に師事。NHK邦楽技能者育成会卒。生田流箏曲松の実會師範（高橋操花）。日本音楽集団団員を経て、現在、フリーにて各種コンサート、放送録音、劇伴等に出演。

田中静子 TANAKA Shizuko

信州大学教育学部音楽科卒業。生田流正派邦楽会大師範。正派合奏団、箏デュオ「ことえり」、二十絃箏グループ「ポプリ」、邦楽グループ「あおたん」に所属。洋楽器とのジョイントコンサート等、ソロ活動も継続中。また、ソプラノ声楽家としての活動も続けている。宮本幸子、加藤雅治、横山雅笙、吉村七重、木村玲子各氏に師事。

荒井美帆 ARAI Miho

箏・二十五絃箏・三絃を佐藤里美師に師事。NHK邦楽技能者育成会第42期卒。立教大学文学部卒。東京都立晴海総合高校特別非常勤講師（邦楽）・箏曲部指導員。生田流箏曲松の実會師範。第二回琴によるポップスコンクール優秀賞・第四回同コンクール家庭音楽会賞受賞。薩摩琵琶とのDuoにて第一回桂座音楽賞・第二回邦楽グループコンテスト最優秀賞受賞。

作曲者プロフィール

高橋久美子 TAKAHASHI Kumiko

武蔵野音楽大学音楽教育学科卒業。ピアノ専攻。クラシックはもとより邦楽、舞台、映像音楽等ジャンルを超えた作曲活 動を国内外で行っている。作曲を田辺恒弥氏に師事。作曲家グループ〈邦楽2010〉メンバー。http://www.geocities.jp/ktittj/

田中修一 TANAKA Shuichi

1966年神奈川県生まれ。伊福部昭、寺原伸夫の両氏に作曲を師事。二十五絃箏、絃楽器を中心に作品多数。詩と音楽の 会「トロッタの会」、作曲家グループ〈邦楽2010〉に参加。日本作曲家協議会会員、日本音楽著作権協会会員。

真鍋尚之 MANABE Naoyuki

洗足学園大学（作曲・声楽）、東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒業。第一回国立劇場作曲コンクール第1位、東京邦楽コンクー第1位、など、作曲及び演奏での受賞多数。00年より、笙という楽器の可能性を追求したリサイタルを開催。今年で6回目を迎える。特に第3回は読売新聞「回顧2003クラシック・4氏が選んだベスト5」に選ばれる。小野雅楽会会員。十二音会会員。

上野哲生 UENO Tessey

国立音楽大学作曲家卒業。中村太郎、満上日出夫の両氏に師事。演奏では「カテリーナ古楽合奏団」「ロバの音楽座」のメンバーで、リュート、プサルテリー等の撥弦古楽器を担当。作曲家として箏曲委嘱作品も多い。

信長貴富 NOBUNAGA Takatomi

1994年上智大学文学部教育学科卒業。1994・95・99年朝日作曲賞（合唱曲）。1998年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位。2000年現音作曲新人賞入選（室内楽曲）。2001年日本音楽コンクール作曲部門（室内楽曲）第2位。多数の合唱作品のほかに、「Fragments」などの歌曲、「エレジアコ・エレキテル」などの室内楽、また邦楽器のための作品も多い。